

を下表のとおり設定する。
また畜産主産地を指定してこれを育成する。特に重点家畜（乳牛、和牛、豚、鶏）は「主産地形成基地」（仮称）を設けて、普及拠点の役割を果たさせる。

末端農家への徹底した指導を実施するため、さらに普及員の特技研修を強化する。

多頭飼育を促進する

飼料その他の飼養の基盤となるものの整備拡大と、資金の確保（農業近代化資金、農業改良資金、肉用畜畜導入事業資金等）をはかり多頭（羽）飼育を促進する。

△乳牛 一戸平均三頭以上を目標として飼育経営を推進する。そしておむね一秒一三秒前後の階層を中心に三六頭飼養の酪農経営を促進する。

△和牛 飼料作物の栽培による多頭飼育を奨励し、褐毛和牛の原産地としての生産基盤を拡充する。
特に阿蘇総合開発地域においては、草地造成による肉用素牛造成事業をとりあげ、天草、芦北などの肥育地帯と緊密な連繋のもとに、生産から肥育まで一貫した対策を実施する。

△豚 多頭飼育を進めるとともに、肉豚を年間を通じて計画出荷するようすすめる。このため、生産者団体による繁殖豚および肉豚の預託事業を積極的に推進することとし、生産・肥育・共同出荷の一貫した体制を確立して、企業的養豚経営の育成に努める。

自立経営を行う場合の飼養規模は、
△畜舎の改良 一などの飼料調製機の導入を進めて、貯蔵飼料を確保する。
特に夏季の暑熱に留意した設計指導をするとともに、多頭化に伴って必要な指導を行う。

△飼料作物の栽培普及

牧野開発の方式調査済みの地区では、モデルケースとしての大規模草地改良事業を実施する。その他の地区は、九州縦・横断道路の開通とあいまつて早急に基本調査を実施し、積極的な大規模開発を促進する。
なお現在実施中の県営放牧利用模範施設（阿蘇郡一の宮町馬場豆札）の成果は、地域草資源開発に大きな影響を与えるので、その調査研究、とくに経済試験を強化する。

△水田地帯 では麦の飼料化転換や田畑輪換をはじめ、水稲早期栽培地に積極的に飼料作物の導入をはかるほか、普通水稲作について中播法により飼料作物の導入を促進する。

「養蚕地帯」では飼料作物の桑園間作を奨励する。ビート茎葉も極力利用するように指導する。
△サイロや飼料調製機の普及 サイロ、チョッパーおよびカッター

おむね十頭以上を目標とするが階層的には五〇アール程度の零細農家を重視する。
△鶏 飼養技術の向上と、バタリ、ケージ施設の完備をはかり、飼養規模を拡大し経営を合理化する。
また、肉鶏生産のため、ブロイラー養鶏については計画的生産と、出荷機構を整備する。

△めん羊、山羊 山間畑地帯の小農家を対象に、羊毛、羊肉、山羊乳の自家利用を主な目的として奨励する。特にめん羊は、食肉資源として需要の伸びが予想されるので、多頭飼育を奨励する。

協業化を助長する

自給自足的な旧来の畜産経営から、商品生産の企業的農業経営に急速に発展することが望ましいが、各農家の経営が零細なため、その方向に進むことがなかなか困難になっている。したがって、共同牧野造成、共同搾乳場、家畜管理所、家畜センター、人工授精所等を利用した家畜の共同飼育、出荷、

自給飼料も大いに増産

計画的な飼料作物の栽培と草資源開発とによって良質安価な自給飼料を増産し、生産コストを切り下げ、真に安定した畜産経営を樹立する。
△草地改良の推進 阿蘇山を中心とする全国屈指の広大な牧野地帯は、これまで自然草地

加工を積極的に奨励指導する。特に零細農家の協業化（鶏、乳牛、豚を重視）を助長する。
優良種畜の確保と、生産率の向上をはかる
家畜改良増殖の根幹である種雄畜の整備は、人工授精の普及発展とともにその影響が大きいので、特に今後飛躍的發展をはかるべき家畜について、血統、体型強力に優れた種雄畜の整備確保のため強力な施策を傾注する。
種雄畜については、各家畜登録事業の推進によって優良な種雄畜の確保をはかる。

生産率の向上のためには

生産率の向上のためには (1)人工授精網の整備と人工授精師の再教育 (2)種付率の引上げによる空胎解消 (3)飼養管理技術の改善 (4)繁殖障害の除去等により優良種畜の整備事業とともに総合的に生産を増強する。
なお、家畜伝染病予防対策としては予防治射、定期検診を実施し、伝染病の侵入防止、各種疾病の早期発見にため、損耗を未然に防止する。

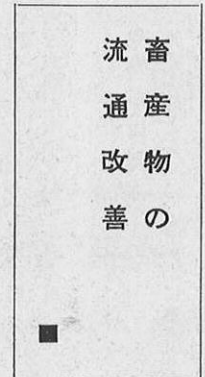
畜産の生産団地計画

区分	主要地区	市郡名	区分	主要地区	市郡名
酪農	草資源にとむ高冷地区と球磨地区ならびに経済立地と島嶼の一部	阿蘇山麓(矢部をふくむ)球磨および球磨地区と大矢野島	馬	草資源にとみ、かつ経営規模の大きい高冷、山麓球磨地区および平坦低地地区の一部	阿蘇総合開発地域、鹿本、飽託、菊池
和牛生産	草資源にとむ高冷、山麓球磨地区および島嶼地区	阿蘇総合開発地域、球磨、玉名、鹿本、上益城、天草	豚	甘藷生産にとむ中央低地球磨、海岸島嶼地区	鹿本、玉名、天下、上益城、菊池、球磨
和牛素牛生産	草資源にとむ高冷地区	阿蘇総合開発地域	めん羊	甘藷生産および養蚕が盛んな平坦低地地区の一部	菊池、鹿本
和牛肥育	甘藷の生産にめくまれた海岸島嶼地区および平坦低地地区の一部	天草、芦北、飽託、宇土	鶏	交通にめくまれた平坦低地地区および島嶼地区	玉名、鹿本、菊池、天草、八代

(註) 市は郡に包含した

畜産物の流通改善

特に次の四点について重点的な指導援助を行う。
△牛乳 生産乳の一元集乳、多元販売体制と乳価の一本化が確立されていないので、その組織の強化をはかる。また生乳取引を文書契約によるよう指導する。余乳の集団飲用、自家利用と、消費宣伝につとめる。
△肉畜 殆んどが庭先取引であるので、肉用畜畜導入事業を実施し、生産者団体による組織的共販体制を確立するよう努める。特に肉豚は、共販また



年度別畜産生産目標

区分	基準年次	昭 40		昭 45		指 数	
		頭数A	頭数B	頭数C	B/A%	C/A%	
乳牛(仔畜)	頭	1,596	5,400	12,000	338.0	751.9	
和牛(〃)	〃	30,451	39,000	45,000	128.1	147.8	
馬(〃)	〃	4,313	5,100	5,100	118.2	118.2	
豚(〃)	〃	35,937	101,535	160,000	241.8	445.2	
めん羊(〃)	〃	5,509	7,330	10,000	133.1	181.5	
山羊(〃)	〃	8,051	11,600	13,000	144.1	161.5	
鶏卵	個	千個 112,931	327,280	423,400	289.8	374.9	
牛乳	kg	13,346	60,750	90,000	455.2	674.4	
山羊乳	〃	1,300	2,438	2,600	187.5	200.0	
肥育牛	頭	3,000	8,500	10,000	283.3	333.3	
肉豚	〃	22,510	56,275	110,500	250.0	490.9	
羊毛	kg	65,000	97,100	132,000	149.4	235.7	
ブロイラー	羽	千羽 80	270	320	337.5	400.0	
ひな	〃	〃 400	700	1,000	175.0	250.0	
計					235.6	322.7	

△鶏卵

は市場販売がわずかに二六%程度で、著しく遅れているので、生産者団体による肉豚の預託事業を奨励し、計画出荷と共販体制を確立する。
なお、肉畜加工工場が少なく、生産の安定を欠いているので、近代的な施設をもつ枝肉および食肉加工工場の設置を促進する。
共同出荷は二五%程度であるので、品質、規格、荷作りの統一を行い、遂次共販に切りかえるとともに、県外市場の獲得につとめる。
しかも、市場調査および生産費調査を実施して、問題点の究明とその対策の確立に努力する。